あのときの常呂・写真館

VOL 115

（１９７５年）

昭和５０年６月８日　湧網線のＳＬ最後の日

▶『佐呂間町百年史』『湧別町百年史』に、昭和５０年６月８日、湧網線のＳＬ最後の日を迎える記述があります。なお、『湧別町百年史』には、この１ヶ月ほど前の５月１４日に名寄線全線からＳＬが姿を消したことも書かれています。

▶『北海道鉄道なんでも事典』（北海道新聞社：２０１３）は、「ＳＬという呼称は蒸気機関車の英語〈スチーム・ロコモティブ〉の頭文字をとったもの。昭和３５（１９６０）年からの動力近代化施策で気動車（ジーゼルカー）化が進み、道内各線では蒸気機関車廃止に伴う〈ＳＬさよなら運転〉が行われた。これが火付け役になって全国からＳＬファンがどっと押し寄せ、ＳＬブームを全国に巻き起こした。ブームはＳＬが営業線から姿を消した昭和５１（１９７６）年には下火になったが、ＳＬの呼称はそのまま残り、外来語ではない日本語として通用している」とＳＬの呼称とブームについて解説しています。

▶常呂町でも例外ではなく、ＳＬ廃止が間近になった昭和５０年３月、ＳＬと流氷を撮影するＳＬファンが常呂町を訪れるようになりました。そのようすを北海道新聞（昭和５０年３月１１日付）は、次のような内容で伝えています。「大きなカメラバッグに三脚を持ったＳＬファンが、流氷をバックに走る網走管内常呂町の湧網線沿線にどっと訪れ、雪原にカメラの放列をしいている。が、ここも６月で姿を消すとあって訪れるマニアはますます増えそうだ。湧網線を走るＳＬは、通称クンロクと呼ばれる９６００型。網走ー中湧別間で貨物列車を引いて１日１往復する。ファンが湧網線に目を向けたのは今年になってから。これまでは、網走市郊外の北浜がメッカだった。ところが釧網線のＳＬが昨年夏に廃止され、流氷とＳＬを撮影できるのはここと名寄本線の興部町の２ヶ所だけになった。しかも両線とも６月には廃止が予定されているので今年が最後のチャンス。このところ常呂町を訪れるＳＬファンは連日３０人を超える。絶好の撮影場所は常呂駅から３キロほど網走寄りの高台。眼下に流氷に埋め尽くされたオホーツク海が望め、交通の便も良い。上りが午前１１時、下りが午後３時頃通過するが、両方ねらうマニアがほとんど。このため、同駅待合室は無料休憩場のようで、「昼間はいつも２０人くらいいる。こんなことは今年が初めてですね」と駅員は驚く。」

▶今回紹介する写真は、ＳＬが湧網線を走る最後の６月８日ではなく、北海道新聞が伝えた記事と同じ頃のもの。当時のＳＬブームの雰囲気が分かる写真だと思います。

＊昭和５０年の
常呂駅正面
（季節は春）

＊左
常呂駅待合室の内部
中央に石炭ストーブ、
奥に売店（キヨスク）
があります。

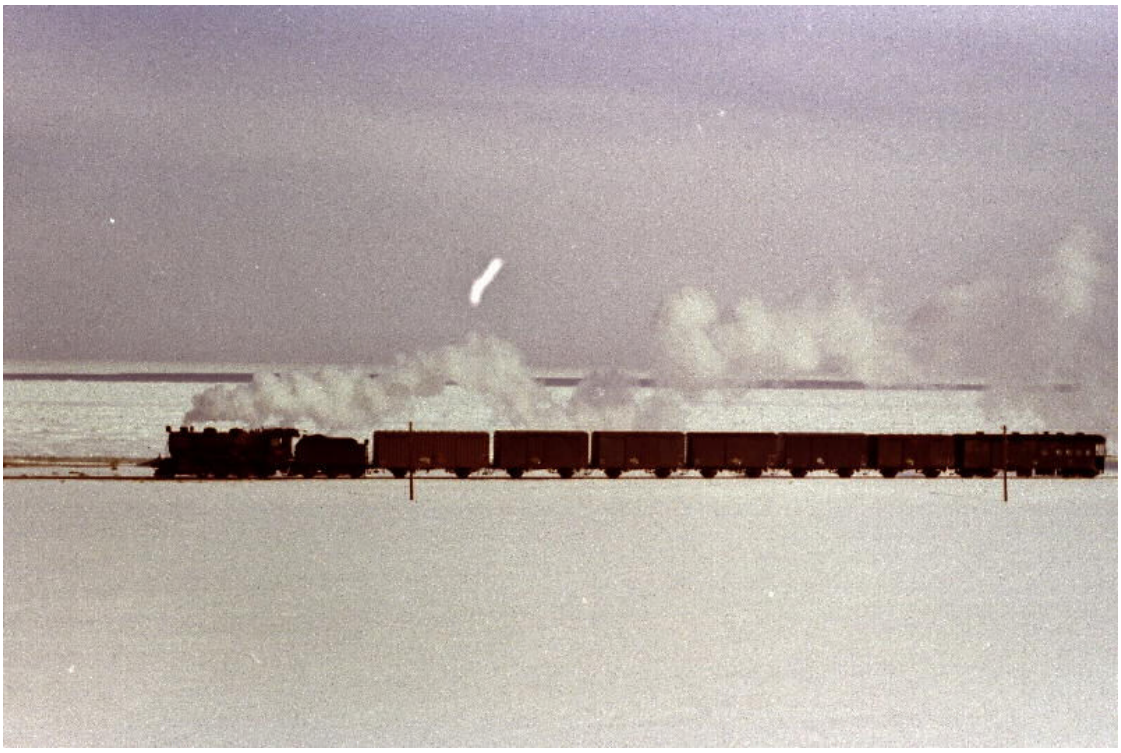
＊右
反対側（売店側）から見た
待合室内部。奥に切符の
販売窓口、事務室が見えま
す。

＊左：切符売り場の窓口

＊下：駅構内で写真を撮るマニアと
ＳＬ

＊この３枚の場所は、東浜地区の国道脇。網走から常呂駅に向かっているＳＬの背景にオホーツク海を埋め尽くしている流氷が見えます。

＊昭和５０年の網走地方気象台の流氷に関する統計では
流氷初日　１月１６日
流氷接岸初日
　　１月２７日
流氷終日　５月　２日
流氷期間　１０７日
海明け　　４月　５日
となっています。



＊この４枚の写真は、昭和３５年頃
の常呂駅構内で停車中のＳＬ